

主日礼拝

2026年4月26日 10時20分～

司式:

奏楽:

「新しい戒め」

『レビ記』においては、神の民としての具体的な倫理を示し、隣人愛のための実践が命じられています。収穫の際に畑の隅まで刈り尽くさないことや、落ち穂を残す規定は、貧しい人や寄留者への配慮を制度化したものです。盗みや欺き、偽りの誓いは禁止され、労働者の賃金を滞らせないことなど、日常生活における正義と誠実が求められます。また、弱い立場の人を傷つけず、公正な裁きを行うことが命じられています。さらに心に憎しみを抱き続けず、復讐や恨みを退け、「隣人を自分のように愛しなさい」と命じられます。信仰は具体的な行いとして表れるべきであり、共同体における正義と憐れみの重要性が強調されています。

『ヨハネによる福音書』は、主イエスがご自身の栄光と弟子たちへの新しい戒めを語る場面です。この箇所は、ユダが裏切るために退出した記事と、ペトロの離反予告の記事に挟まれています。主は自らの受難と死を通して、人の子なる主イエス御自身が栄光を受け、父なる神もまた主イエスによって栄光をお受けになるのだと宣言されます。まもなく弟子たちのもとを去り、弟子たちは一時的に主を見失いますが、後になってから、主に従うことになるのです。その上で「新しい戒め」として、互いに愛し合うことが命じられます。この愛は、裏切る弟子たちをも、主イエスが愛したことに表された自己犠牲的な愛であり、単なる感情ではなく具体的な行いを伴うものです。弟子たちがこの愛を実践するならば、それによって彼らが主イエスの弟子であることが世に明らかになるのです。そして、教会の本質が愛にあることが強調されています。

《神の招き》

前 奏 『イエスはわが望み』 J.S. バッハ
招 詞 詩編112編1節
賛 美 歌 517

《神の言葉》

祈 禱 聖霊の照らしを求める祈り
聖 書 レビ記19章9～18節 (旧約179頁)
ヨハネによる福音書13章31～35節 (新約191頁)

子ども説教
交 読 詩 編 詩編34編1～8節 (39頁)
賛 美 歌 411
説 教 「新しい戒め」 八木浩史牧師
祈 禱
賛 美 歌 520

《感謝の応答》

信 仰 告 白 使徒信条
献 金
祈 禱 献金当番
主 の 祈 り (週報表紙、ホームページ掲載)

《派 遣》

頌 栄 24
祝 福
報 告
後 奏 『たたえよ、主の民』 (讃美歌21-24 F.W. ツァハウ)

礼拝当番: (役員:) 献金当番:
音響: 映像: